

令和8年度 連携排砂に伴う環境調査計画（案）について

～ 目 次 ～

1. 調査の基本的な考え方	1
2. 環境調査の変更点	2
3. 調査内容	3
4. 環境調査位置図	4
5. 環境調査一覧表	6
6. 環境調査における調査項目と数値のもつ意味について	10

調査の基本的な考え方

- (1) 環境調査の基本的な考え方は、平成8年度から継続的に行っている調査と同じである。
- (2) 環境調査は、定期調査(排砂・通砂期の前・後の平常時)と排砂・通砂・細砂通過放流中の調査よりなる。

(凡例) ●: 調査頻度 : 調査項目変更箇所

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全 体 工 程				<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 連携排砂・通砂期間 </div>									
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 出水が発生し易い時期 </div> 例年の梅雨明け 7月20日頃									
実 施 項 目			定期調査	排 砂 ・ 通 砂 中			定期調査						
水 質	ダ ム		●	● ※排砂・通砂の1日後			●						
	河 川		●	● 排砂・通砂中および※1日後			●						
	海 域		●	● 排砂・通砂中および※1日後			●						
底 質	ダ ム		●				●						
	河 川		●				●						
	用 水 路		●				●						
	海 域		●				●						
水 生 生 物	河 川		●				●		●				
	海 域		●				●						
測 量	河 川								●				
	ダ ム		●	● (排砂・通砂後速やかに実施)			●			●			

※排砂・通砂が終了した1日後の調査を基本とするが、ダムから越流しているなど、調査時の安全性が確保できない場合は、近々の調査可能日まで延期する場合がある。

環境調査の変更点

項目	R7年度調査	検討内容	R8年度調査 (計画)
河川	<p>調査時期 5月、排砂・通砂中、排砂・通砂1日後、9月</p> <p>調査地点 猫又、出し平ダム直下、黒薙、宇奈月ダム直下、愛本、下黒部</p> <p>調査内容 水温、pH、BOD、COD、※DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度 (BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎) (T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回)</p>	<p>【調査地点】 猫又の調査については、十分なデータの蓄積ができたため、調査を終了する。</p> <p>【調査内容】 出し平ダム直下の調査について、濁度・DO連続自動計測に変更 (BOD、COD、SS、T-N、T-P、SS粒度の取止め)</p> <p>黒薙の調査について、水温・DO・濁度自動計測に変更 (SS、SS粒度、pHの取止め)</p> <p>※詳細については「資料-2(別冊)」参照</p>	<p>調査時期 5月、排砂・通砂中、排砂・通砂1日後、9月</p> <p>調査地点 出し平ダム直下、黒薙、宇奈月ダム直下、愛本、下黒部</p> <p>調査内容 <出し平ダム直下> 水温、pH、濁度、DO連続自動計測 <黒薙> 水温・DO・濁度連続自動計測 <宇奈月ダム直下、下黒部> 水温、pH、BOD、COD、※DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度 (BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎) (T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回) <愛本> 水温、pH、DO、SS、濁度、SS粒度</p>
海域	<p>調査時期 5月、9月</p> <p>調査地点 小型底引網3</p> <p>調査内容 外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物</p>	<p>【調査地点】 小型底引網3地点近傍に海洋深層水配管が新設され、調査に支障をきたすことから当該地点の調査を取止め、R8年度より小型底引網2地点に変更とする。</p> <p>※詳細については「資料-2(別冊)」参照</p>	<p>調査時期 5月、9月</p> <p>調査地点 小型底引網2</p> <p>調査内容 外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物</p>

調査内容

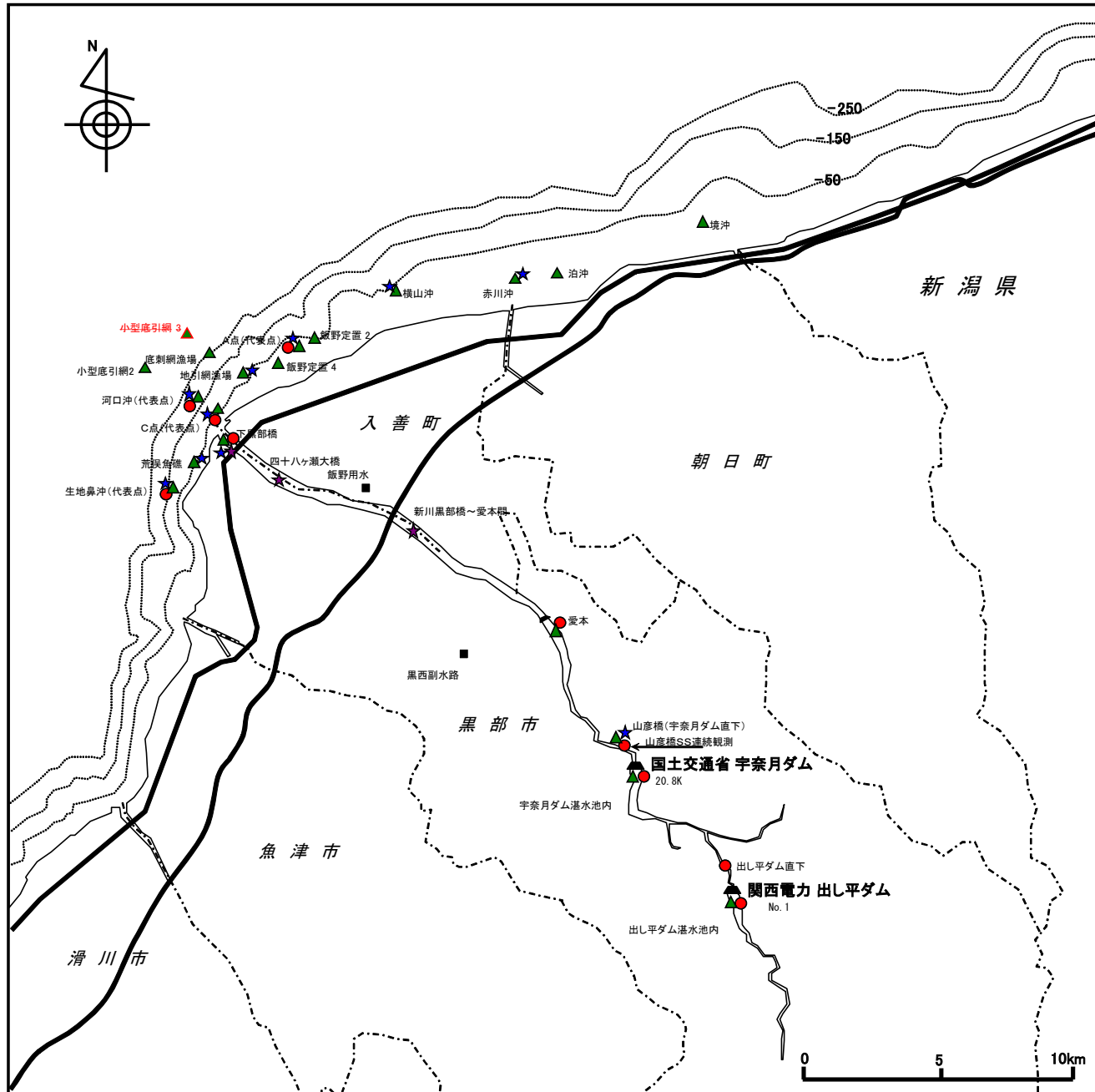
調査項目・地点		調査内容	直前 排砂・通砂中(排砂ゲート開~排砂・通砂後の措置完了1日後)					抑制策中(8月9日)	定期調査(8月9日)	定期調査(11月)	備考
項目	地点名		定期調査(8月5日)	定期調査(8月9日)	定期調査(8月9日)	定期調査(8月9日)					
水質調査	ダム	1ヶ所 出し平ダム湛水池内 (No.1水深方向2層<表・底層>)	●	●	●	●	●	●	●		
		1ヶ所 宇奈月ダム湛水池内 (20.8k水深方向2層<表・底層>)	●	●	●	●	●	●	●		
	河川	1ヶ所 出し平ダム直下	濁度連続観測 ^⑤	←	←	←	←	←	←		
		2ヶ所 宇奈月ダム直下、愛本		←	←	←	←	←	←	その他出洪水含む	
		1ヶ所 宇奈月ダム直下	SS連続観測	←	←	←	←	←	←		
		1ヶ所 出し平ダム直下 (排砂中の速報は、出し平ダム直下の濁度とDO)	水温、pH、濁度、DO連続観測	●	●	●	●	●	●	●	自動計測のみ(人力による採水取止め) ☆: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所 山彦橋(宇奈月ダム直下) (排砂中の速報は、宇奈月ダム直下の濁度とDO)	水温、pH、BOD、COD、※DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度 (BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎) (T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回)	●	●	●	●	●	●	●	☆: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所 愛本	水温、pH、DO、SS、濁度、SS粒度	●	●	●	●	●	●	●	☆: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所 下黒部橋	水温、pH、BOD、COD、DO、SS、濁度、SS粒度 (BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎)	●	●	●	●	●	●	●	☆: 排砂・通砂中に準ずる
	1ヶ所 描又	水温、pH、※DO、濁度、SS	—	—	—	—	—	—	—	☆: 排砂・通砂中に準ずる	
1ヶ所 黒薙川	水温、pH、DO、濁度、SS	—	—	—	—	—	—	—	自動計測のみ(人力による採水取止め) ☆: 排砂・通砂中に準ずる		
海域	2ヶ所 (代表1地点) C点、P-12	水温、塩分、DO、伝導率及び濁度連続観測 ^⑤	←	←	←	←	←	←			
	4ヶ所 (代表4地点) A点、C点、河口沖、生地鼻沖	水温、塩分、pH、COD、DO、SS	●	●	●	●	●	●			
	10ヶ所 P-2、P-4、P-9、C'点、P-10、P-12、吉原15、横山20、M-8、宮崎沖	COD、SS	—	—	—	—	—	—	—		
底質調査	1ヶ所 出し平ダム湛水池内 (No.1)	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物、強熱減量	●	●	●	●	●	●	●		
	1ヶ所 宇奈月ダム湛水池内 (20.8k)		●	●	●	●	●	●	●		
	3ヶ所 山彦橋(宇奈月ダム直下)、愛本、下黒部橋	外観、臭気、※粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP ※山彦橋(宇奈月ダム直下)のみ粒度分布、比率	●	●	●	●	●	●	●		
	2ヶ所 飯野用水、黒西副水路	堆積量 ^⑩	●	●	●	●	●	●	●		
	4ヶ所 (代表4地点) A点、C点、河口沖、生地鼻沖	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物	●	●	●	●	●	●	●	ORPについては、ORP観測値がH26年度までの観測値の最小値を下回り、かつ、還元状態が確認された場合は、ORPのみを調査地点の周辺や時間経過による状況把握調査を行なう。	
	10ヶ所 荒俣沖魚礁、飯野沖地引網漁場内2、底刺網漁場、小型底引網2、飯野定置4、飯野定置2、横山沖、赤川沖、泊沖、境沖	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物	●	●	●	●	●	●	●		
— 黒部川以東海域	海域のシミュレーション	—	—	—	—	—	—	—	12月 海域の土砂堆積状況を表層の濁り拡散状況よりシミュレーションし、その結果により推定する。		
11ヶ所 A点、C点、生地鼻沖、荒俣沖魚礁、飯野沖地引網漁場内2、飯野定置4、飯野定置2、横山沖、赤川沖、泊沖、境沖	海域の水中写真撮影、水中動画撮影	●	●	●	●	●	●	●	底質探泥にあわせて撮影する。		
水生生物	2ヶ所 山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋	魚類、底生動物、付着藻類、カドフィタ	←	←	←	←	←	←			
	3ヶ所 下黒部橋、四十八ヶ瀬大橋、新川黒部橋~愛本間	魚類(アユの産卵床等の軟度調査を含む)	←	←	←	←	←	←	※具体的な調査内容については、学識経験者、関係機関等の意見を伺い決定する。		
8ヶ所 A点、C点、河口沖、生地鼻沖、荒俣沖魚礁、飯野沖地引網漁場内2、横山沖、赤川沖	底生動物(マドベントス)	●	●	●	●	●	●	●			
	監視	1ヶ所 出し平ダム	I TVによるビデオ撮影	←	←	←	←	←	←		
1ヶ所 宇奈月ダム		I TVによるビデオ撮影	←	←	←	←	←	←			
全体	黒部川水系及び近隣河川流域(近隣河川は海域のみ)	ヘリコプターによるビデオ・写真撮影	—	—	—	—	—	—	●宇奈月ダム自然流下中 ●出し平ダム自然流下中 原則 排砂時のみ実施		
測量	河川	山彦橋(宇奈月ダム直下)~黒部川河口	航空レーザー測量(ALB)	—	—	—	—	—	—		
	ダム	39断面 出し平ダム堆砂測量	横断測量	● ^⑧	●	●	●	●	●	★: 速やかに実施、スマート化測量試行	
		29断面 宇奈月ダム堆砂測量	横断測量	●	●	●	●	●	●	★: 速やかに実施	

※特記事項

- 排砂後の措置中の宇奈月ダムから下流の河川域の水質調査については、自然流下中調査に準じた頻度で実施する。
- 抑制策中の海域水質調査については、排砂・通砂中に準じた頻度で実施する。
- 排砂・通砂中のDO測定はDOメータを使用する。
- 魚類調査における調査地点は上表を基本とするが、実施に際しては河川状況に応じて決定する。
- 細砂通過放流中における環境調査は、出し平ダム直下、宇奈月ダム下流、海域0点、P-12点で濁度連続観測を行う。
なお、連続濁度計が故障し、細砂通過放流の実施時に使用不可となった場合には、代替の計測方法・地点にて環境調査を実施する必要がある。
- 排砂・通砂が中止となった場合は、実施機関で状況を総合的に判断し、その後の適切な環境調査の実施を行う。
- 排砂期間中、各種対策後に全区間測量ができなかった場合、9月に全区間測量を実施する。
- 当該年度の土砂堆積調査については、過去調査実績最大堆砂量を目安として実施を判断する。
- 5月測量後に、5月出水として既往最大程度の出水があった場合は、当面の間測量を実施する。
- 用水路堆積調査については、地元要望により、定期(5月)調査を4月末等に調査時期を変更する必要がある。
- 排砂・通砂が終了した1日後の調査を基本とするが、ダムから越流しているなど、調査時の安全性が確保できない場合は、近々の調査可能日まで延期する必要がある。

定期調査(5月・9月・11月)

凡 例



● : 水質調査※1
(ダム2、河川4、海域4)

▲ : 底質調査※1
(ダム2、河川3、海域14)

■ : 堆積量調査※1
(用水2)

★ : 水生生物調査※2
(定期調査)
(河川2、海域8)

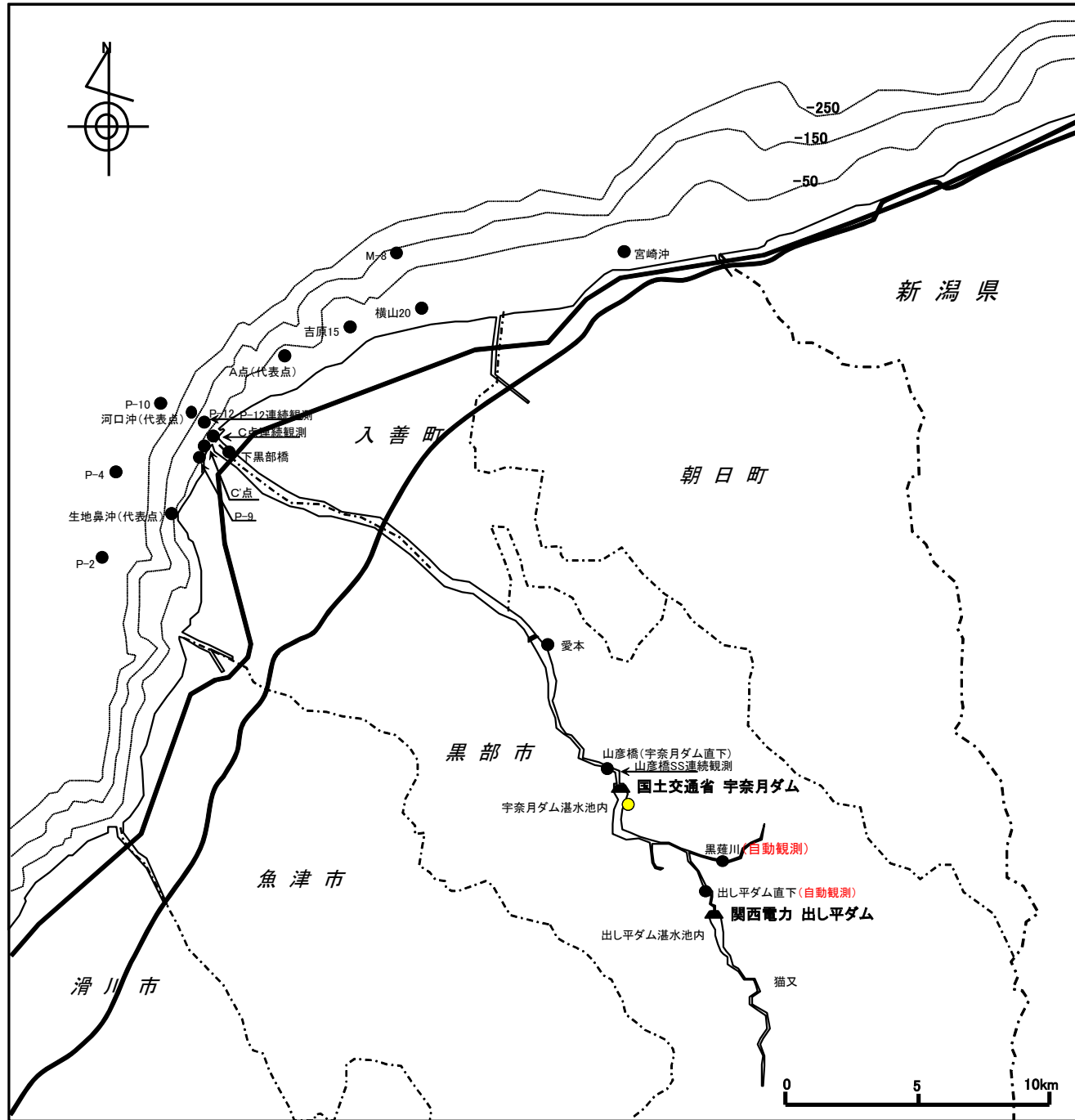
★ : 水生生物調査※3
(5月～8月調査)
(河川3)

※1 : 5月、9月の2回実施

※2 : 5月、9月の2回実施

※3 : 5月～8月の間、概ね2回/月実施

排砂中調査



凡例

● : 水質調査

(河川 5) うち、愛本はSSのみ

(海域 1 4<4+10>)

(海域連続観測 : 2 地点)

● : 水質調査

(ダム 1) : 排砂1日後のみ

排砂・通砂に伴う環境調査一覧表（1 / 4）

整理番号	調査項目	調査内容	調査目的	調査地点	調査時期	調査年度																終了・継続または開始	調査の結論								
						平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	ダム	水温、pH、COD、DO、SS	排砂に伴うダム湛水池の水質調査を実施する。	1ヶ所	出し平ダム湛水池内（水深方向2層<表・底層>）	5月、9月、※排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中。ただし、R3年度より調査時期は排砂・通砂1日後調査は取止め）							
2				1ヶ所	宇奈月ダム湛水池内（水深方向2層<表・底層>）	5月、9月、排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中）							
3	河川	高度連続観測	短時間集中豪雨対策時等に高度を自動観測し、河川状況の把握する。	1ヶ所	出し平ダム直下	排砂直前～9月 (R3より出し平ダム直下は細砂通過放流時のみ)	[調査実施]																継続	（継続調査中。ただしR3年度より調査時期は細砂通過放流時のみとする）							
4				2ヶ所	宇奈月ダム直下、愛本		[調査実施]																継続	（継続調査中、R3年度より愛本地点も追加する）							
5	河川	水温、pH、BOD、COD、DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度 (BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎) (濁度は、全地点) (T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回)	排砂に伴う河川の水質調査を実施する。	1ヶ所	出し平ダム直下 (排砂中の速報は、出し平ダム直下の濁度とDO)	5月、9月、排砂中、※排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中。ただし、R3年度より調査内容のDOはメータのみ（測定取止め）とする。調査時期は排砂・通砂1日後調査は取止めの。R8年度より、濁度・DO連続自動計測に変更、その他のデータについては、下流河川および海域への影響を調査する必要があるため、宇奈月ダム直下から下流のデータにより評価する。）							
6				1ヶ所	山彦橋（宇奈月ダム直下） (排砂中の速報は、宇奈月ダム直下の濁度とDO)	5月、9月、排砂中、排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中。R5年度より排砂・通砂中のDOはメータ（測定取止め）とする。）							
7				1ヶ所	愛本	5月、9月、排砂中、排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中。ただし、R2年度より調査内容は水温、pH、DO、SS、濁度、SS粒度とし、BOD、COD、T-N、T-Pは取止めの、R5年度より排砂・通砂中のDOはメータ（測定取止め）とする。）							
8				1ヶ所	下黒部橋	5月、9月、排砂中、排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中。ただし、R2年度より調査内容は水温、pH、DO、SS、濁度、SS粒度、BOD、CODとし、T-N、T-Pは取止めの、R5年度より排砂・通砂中のDOはメータ（測定取止め）とする。）							
9				1ヶ所	S S連続観測	宇奈月ダム直下	6～9月	[調査実施]																継続	（継続調査中）						
10				1ヶ所	水温、pH、DO、濁度、SS、BOD、COD、T-N、T-P	1ヶ所	その他（黒又・黒羅川）	排砂中、排砂1日後	[調査実施]																継続	濁又の調査については、十分なデータの蓄積ができたため調査を終了する。黒羅はR8年度より、水温・DO・濁度自動計測に変更 （継続調査中。黒羅川についてはR2年度より調査内容は水温、pH、DO、SS、濁度とし、BOD、COD、T-N、T-Pは取止めの、R5年度より排砂・通砂中のDOはメータ（測定取止め）とする。濁又については、R2年度より黒羅川と同一調査内容（かつ、DOはメータのみ（測定取止め）とし、調査時期は排砂通砂1日後を取止め）					
11				7ヶ所	（排砂・通砂中の調査に準じる）	出水時の河川水質データを取得する。	（排砂・通砂中の調査に準じる）	出水時	[調査実施]																終了	出水時調査については、これまでデータの蓄積ができたこと、今後も上流地点である濁又・黒羅川において排砂・通砂時に調査を行うことから、出水時の調査は終了とする。					
12				沈砂池	水温、pH、COD、塩分、SS	排砂に伴う合口ダム沈砂池の水質を把握する。	2ヶ所	愛本合口ダムを右岸沈砂池出口	5月、9月、11月	[調査実施]																終了	排砂期間前後の変化はほとんどみられない。				
13				用水路		排砂に伴う用水路の水質を把握する。	4ヶ所	棚山（くぬぎやま）上流、入善下流、金屋用水、黒副用水	5月、9月、11月	[調査実施]																終了	概ね河川水に近い値を示している。				
14				海域	高度連続観測	排砂に伴う海域の水質を把握する。	2ヶ所	（代表1地点）C点、P-12	5～9月	[調査実施]																継続	（継続調査中）～H22年まで代表4地点（C点、A点、河口沖、生地鼻沖）、H23年からC点及びP-12の地点の連続観測に変更、H29年からはH23年以降実施している2地点の観測項目を追加する。これまでの濁度に加え、水温、塩分、DO、伝導率の4項目を追加観測する。				
15	4ヶ所	（代表4地点）A点、C点、河口沖、生地鼻沖	5月、9月、排砂中、排砂1日後				[調査実施]																継続	（継続調査中）							
16	海域	COD、SS	海域に流出する土砂の起源あるいは土砂の拡散を考察するために、出水時における小川河口周辺海域での水質調査を行った。	21ヶ所	石田沖、P-2、P-4、P-6、P-9、C'点、P-10、P-12、P-15、P-16、P-17、P-19、吉原15、P-20、横山20、M-8、M-10、赤川沖、沼沖、宮崎沖、境沖	排砂中、排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中）なお、※R3年度より調査地点は既往調査データから類似性の高い地点は、地点の平面分布を考慮し終了する。21ヶ所から10ヶ所へ変更する。							
17				※10ヶ所	P-2、P-4、P-9、C'点、P-10、P-12、吉原15、横山20、M-8、宮崎沖		[調査実施]																								
18				13ヶ所	小川河口付近	排砂（出水）時	[調査実施]																終了	小川での濁りのピークが夜間であり、海域での採水を実施しておらず、海域における小川からの濁りの拡散状況を把握できなかった。 →No. 31へ引き継ぐ							
19	1ヶ所	C点	河川から流出する土砂を採取分析することで、排砂が環境へ与える影響を考察する。	5～9月	[調査実施]																終了	排砂通砂時と出水時の調査結果の比較では、H16年7月と9月の分析値に大きな差異はない									
20	4ヶ所	（代表4地点）A点、C点、河口沖、生地鼻沖	黒部川河口域の深度ごとの流速及び水質調査を行い、セジメントトラップ設置位置の潮流状況を把握するとともに、海域への高り成分の流出形態を考察する。	排砂中	[調査実施]																終了	水深別に調査結果を比較すると、H17年8月及びH18年5月の調査結果からは、水深による分析値の差異は見られない。よって、本試験によって一定の成果が得られたと考える。									
21	ダム	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物、強熱減量	排砂に伴うダム湛水池の底質調査を実施する。	※2ヶ所	出し平ダム湛水池内	5月、9月、※排砂1日後	[調査実施]																継続	（継続調査中）なお、※R3年度より調査地点は2ヶ所（No.1、No.3）を1ヶ所（No.1のみ）とし、調査時期は排砂通砂1日後を取止める。							
22				5ヶ所	出し平ダム湛水池内	11～2月	[調査実施]																終了	データを見る限り、特段問題のあるデータは見られない（高倉委員長コメント）。							
23				2ヶ所	出し平ダム湛水池内	9～10月	[調査実施]																終了	H29調査結果、No.3およびNo.5地点におけるボーリング試料分析結果と同地点の至近調査結果（H20）を比較すると、有機物指標などに顕著な変化は見られない。							
24				3ヶ所	出し平ダム湛水池内	平成24年排砂時の出し残し土砂の性状を把握する。	8月～9月	[調査実施]																終了	出し平ダムボーリング調査結果によると、排出されなかった土砂は、比較的粒径が大きく、COD等の測定値を見る限り、今後排砂しても特に環境に影響を与えるものではないと考えられる。						
25				1ヶ所	出し平ダム湛水池内	排砂の事後評価の際の基礎資料や排砂未実施時の知見を収集する。	5月	[調査実施]																終了	R5調査結果、No.5地点におけるボーリング試料分析結果と同地点の過年度調査結果を比較すると、有機物指標などに顕著な変化は見られない。						
26	2ヶ所	出し平ダム湛水池内	ORPの連続観測により堆積土砂の酸化還元傾向を把握する。	10～12月（連続観測）	[調査実施]																終了										

(備考) 1 上記の環境調査は、調査最終年に実施した内容を記載している。調査最終年以前の調査地点ならびに調査内容等の軽微な変更は反映していない。

排砂・通砂に伴う環境調査一覧表 (3 / 4)

整理番号	調査項目	調査内容	調査目的	調査箇所・地点	調査時期	調査年度																	終了・継続または開始	調査の結論													
						平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度			平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
45	3 河川 水生生物	魚類、底生動物、付着藻類、Y007/ka	排砂に伴う河川の水生生物調査を実施する。	2ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋	5月、9月、11月	継続																	継続	(継続調査中)												
46		魚類		3ヶ所	下黒部橋、四十八ヶ瀬大橋、※新川黒部橋	5~9月	継続																	継続	(継続調査中)なお、※R3年度はこれまでの2ヶ所の調査にくわえて新川黒部橋の1ヶ所を追加ならびにアユの産卵床等の軟度調査を追加する。R4年度は、新川黒部橋~愛本間で調査を実施する。												
47		付着藻類	出水や排砂前後での付着藻類の活着、剥離状況を把握する。	1ヶ所	下黒部橋	5~8月																														終了	排砂および出水以降の採取細胞数は排砂の影響で一時的に減少するものの、その後短期間に回復する。
48		付着藻類の変化要因調査	H21以降の付着藻類相において、珪藻類から藍藻類への変化が見受けられることから、変化要因を把握する。	4ヶ所	猫又(H29~)、森石(H29~)、山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋	5~11月、山彦橋においては、出水後に調査を実施																														終了	河川付着藻類については、山彦橋地点での優占種変化要因の一つとして、上流の宇奈月ダムから供給される土砂と河床の粒径組成に関連性があるものと考えられる。
49		降下調査	魚の降下、排砂中の魚の動きなど全体的な傾向を把握する。	5ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋、愛本橋、新川黒部橋、四十八ヶ瀬大橋	排砂1週間後、1月																														終了	いずれの地点も、今年の夜間調査で初めて確認された種は無かった。
50		瀬・淵調査	河川の瀬・淵は魚類の生息等に重要な場であることから、排砂の実施による瀬・淵の変化を把握する。	3ヶ所	下黒部橋上流左岸、四十八ヶ瀬大橋下流左岸、新川黒部橋上流左岸	排砂前、排砂後																													終了	調査実施予定日において、流量、流速、濁り等の条件により調査(測線設定や試料の採取、カメラ撮影)を十分に実施できなかった等、変化の有無が明確に把握できなかった。	
				—	山彦橋(宇奈月ダム直下)~黒部川河口	排砂前・排砂後																														終了	山彦橋(宇奈月ダム直下)から黒部川河口までの間における瀬、淵構造の変化について、航空写真および測量による追加調査を実施したが、「全川にわたる堆積傾向ではなく、局所的に堆積と浸食傾向の箇所の分布していることが確認された(第51回(R2.2.5)排砂評価委員評価)」ため、本調査を終了する。
51		アユの生息実態調査(採捕)	アユの生息密度や成長過程を把握する。	5ヶ所	下黒部橋右岸、四十八ヶ瀬大橋、権蔵橋、下立地区、音沢橋	月2回及び排砂後、出水後																													終了	下黒部橋下流は、種類数及び採捕尾数ともに四十八ヶ瀬大橋より多い。アユの主な生息範囲は、概ね四十八ヶ瀬大橋下流域に限定される。過年度の傾向として、連携排砂を伴う大規模な出水後は、体長、体重、肥満度は減少傾向にあり、約1ヶ月後は回復傾向を示している。	
52		アユの生息実態調査(胃内容物)	アユが食べているものを把握する。	8ヶ所	下黒部橋右岸、下黒部橋左岸、四十八ヶ瀬大橋、黒部大橋、権蔵橋、新川黒部橋、愛本橋、音沢橋	月2回及び排砂後、出水後																													終了	大きい出水直後は胃充満度は低下するが、その後は概ね1ヶ月程度で上昇傾向が見られた。放流の可能性の高い種菌は、藻類の摂取量が少なく、水生昆虫の量が多かった。体長150mm以上の放流個体の胃充満度が低い傾向が見られた。	
				2ヶ所	四十八ヶ瀬大橋、新川黒部橋付近	9月																														終了	アユの生息実態調査として胃内容物について追加調査したものであるが、「アユの胃内容物の強熱残留物に占める砂粒の割合はH17年度調査と概ね同程度であること、また、肥満度は他河川(常願寺川)と比較しても同程度であることが確認された(第51回(R2.2.5)排砂評価委員評価)」ため、本調査を終了する。
53		アユの生育実態調査(飼育実験、食味試験)		2ヶ所	四十八ヶ瀬大橋付近、常願寺川常盤橋付近	9月																													終了	アユの胃内容物調査の結果、消化管に含まれる砂粒・無機物の量は比較対象の他河川と同程度であり、その多くが珪藻類であったことが確認された。アユの食味試験の結果は良好であり、一定期間無給餌で飼育することにより更に食味が向上することが確認されたため、本調査を終了する。	
54		アユの生息実態調査(耳石)	耳石のパターンを見ることによって、一度海域まで降下、流出したアユが再遡上しているかどうか検証、及び採捕アユが突然遡上か放流種苗かを把握する。	4ヶ所	下黒部橋右岸、下黒部橋左岸、四十八ヶ瀬大橋、音沢橋	排砂後、出水後																													終了	大きな出水時に海域に流出後、河川に再遡上した履歴を有すると考えられる個体は約6%であり、流出した個体が海域中に滞在した期間は約16~18時間であった。データが少なく断定できないが、再遡上する個体は天然遡上個体の割合が高かった。出水による海域への流出により、アユが塩分濃度差により発死する事がない事を確認した。	
55		アユの生息環境調査(付着藻類:一定面積)	付着藻類の現存量、種の推移を把握する。	5ヶ所	下黒部橋右岸、下黒部橋左岸、四十八ヶ瀬大橋、権蔵橋、愛本橋	月2回及び排砂後、出水後																													終了	藻類の種類数は排砂後に減少するが、約1週間後に珪藻、2週間後に藍藻が付着し、1ヶ月後には回復することが判った。黒部川の付着物組成に細粒成分が多いのは、付着藻類の生長に伴い、定常的に流下するウオッシュロード成分を補足する事による。付着藻類は出水によって剥離してしまう。出水により、付着藻類が大量の細粒土砂を捕捉し、生育が阻害されるという現象は無かった。黒部川のクロフィルa量は下流域を除き、他河川と比較非常に少ない。	
56		アユの生息環境調査(産卵床)	産卵増進に向けアユの産卵床の状況を把握する。	2ヶ所	河口から四十八ヶ瀬大橋の2.8km区間	10月																													終了	アユの産卵床として最適条件は、浮き石状態で粒径が比較的小さい河床。アユの主要な産卵場所は河口から1.2km地点と推定した。	
57		アユの生息環境調査(摂餌環境)	摂餌環境を調査し、何を食べているかを把握する。	2ヶ所	下黒部橋右岸、四十八ヶ瀬大橋	5~8月																													終了	年間を通じて、胃内容物中の有機物(デトリタス)が主成分と考えられる)と無機物(細粒土砂分)の比は2:8と一定であり、排砂・通砂を伴う出水前後で大きな変化は見られなかった。黒部川では採付着物の大半がデトリタスであるが、エネルギーとしてはそれなりに有効な餌である事が考えられる。	
58		アユの生息環境調査(リファレンスサイトとの比較)	連携排砂がアユ等魚類の肥満度や生息環境に与える影響を分析評価するため、連携排砂を実施していない常願寺川をリファレンスサイトとして、魚類採捕に関する調査を実施する。	2ヶ所	四十八ヶ瀬大橋、常願寺川(富立大橋)	5~8月																													終了	黒部川のアユの体長・体重・肥満度について、排砂がない常願寺川と同様な結果が確認できた。	
59		魚類忌避行動調査	出・洪水時、排砂時に魚類が忌避行動によって対比する状況や待避ヶ所の特徴を把握する。	18ヶ所	四十八ヶ瀬大橋から黒部大橋間の1km区間																														終了	アユ、ウグイを始めとした魚類により、出水時並びに自然流下直後の退避が確認され、特にSS濃度が増加した自然流下直後の退避が多く確認された。また、下流域では退避個体が多い事を確認した。	
60	土砂堆積調査	排砂前後の河道内の土砂堆積状況の変化を把握する。	1ヶ所	四十八ヶ瀬大橋から黒部大橋間の1km区間	排砂前、排砂(自然流下)、排砂後の措置後																													終了	H22年度に終了。排砂時のデータが蓄積されたこと、また、排砂後の河道内の堆積状況の変化が把握できたことから調査を終了する。ただし、過去調査範囲を超える自標排砂量の場合は調査を実施する。		
61	用水路付着藻類	水路床に付着する水生植物と排砂との関係を調査する。	5ヶ所	上原用水、飯野用水、下山用水、黒西副水路	5月、9月、11月																													終了	水路床の植物は主としてウスキメリゴケであった。この種は国内では北海道から本州にかけて広く分布し、深流沿いの湿った岩上や砂礫などに緑色あるいは褐色がかったマットを作るコケの一種で、胎子から生長する植物であることから、排砂の影響で新たに増殖するようになった種であると考えにくい。		

(備考) 1 上記の環境調査は、調査最終年に実施した内容を記載している。調査最終年以前の調査地点ならびに調査内容等の軽微な変更は反映していない。

環境調査における調査項目と数値のもつ意味について

★ 水質調査項目

項目	定義	数値の示す意味	
		小 ← 数値 → 大	
pH	(水素イオン濃度) 酸性またはアルカリ性の程度を示す。 河川AA類型: 6.5~8.5 海域A類型: 7.8~8.3 JIS K 0102-1 12 ガラス電極法	酸性 中性 7.0 アルカリ性	農水産物に被害
BOD	(生物化学的酸素要求量) 水中の有機物が微生物により分解するときに消費される酸素の量であり有機物の大小を示す。 河川AA類型: 1mg/ℓ以下 JIS K 0102-1 18 生物化学的酸素消費量(BOD) JIS K 0102-1 21.4 隔膜電極法	有機物が少ない(清浄)	有機物が多い(汚染)
COD	(化学的酸素要求量) 水中の有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸素の量であり有機物の大小を示す。 海域A類型: 2mg/ℓ以下 JIS K 0102-1 17.2 酸性過マンガン酸カリウムによる酸素消費量(CODMn)	有機物が少ない(清浄)	有機物が多い(汚染)
SS	(浮遊物質) 水中に浮遊する粒子の量を示す。 河川AA類型: 25mg/ℓ以下 環境庁告示第59号付表8 ガラス繊維ろ紙重量法	濁り小	濁り大
DO	(溶存酸素量) 水に溶けている酸素の量を示す。 河川AA類型: 7.5mg/ℓ以上 海域A類型: 7.5mg/ℓ以上 魚類窒息: 2mg/ℓ以下 [排砂中止基準: DO ≤ 4mg/l] JIS K 0102-1 21.2 よう素滴定法 JIS K 0102-1 21.5 光学式センサー法	酸素少ない(汚染)	酸素多い(清浄)
濁度	水の濁りの程度を示す値であり、カオリン(白陶土)1mg/l=1度である。 水道水: 2度以下 JIS K 0102-1 9.4 散乱光濁度	濁り小	濁り大
塩分	水に溶けている塩類(塩化ナトリウム、硫酸マグネシウム、硫酸カルシウムなど)の程度を示す値である。 海洋観測指針8.2.5(塩分計分析法)実用塩分式	河川水の流入多い	河川水の流入少ない
EC (伝導率)	水が電気を通す能力の程度を示す値であり、単位は、μS/cm(マイクロジーメンズパーセンチメートル)である。 我が国の河川の平均的な伝導率は120μS/cm、海水は約45,000μS/cm	河川水の流入多い	河川水の流入少ない

★ 底質調査項目

項目	定義	数値の示す意味	
		小 ← 数値 → 大	
COD	(化学的酸素要求量) 有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸素の量であり、有機物等の濃度の大きさを示す。 (水産用水基準で 汚染の始まりかかった泥: COD ≥ 20mg/g) 底質調査法 II 4.7 KMnO ₄ による酸素消費量	有機物が少ない	有機物が多い
強熱減量 (1L)	試料を強熱する際に生じる質量の減少率であり、底泥の有機性汚濁の程度を示す指標として最も簡便な方法である。 有機物含有量が多いと大きな値を示す。 底質調査法 II 4.2 重量法	有機物が少ない	有機物が多い
T-N	(全窒素) 亜硝酸イオン、硝酸イオン、アンモニウムイオン及び有機態窒素含有率の合計であり、栄養状態により値が変化する。 底質調査法 II 4.8.1.2 インドフェノール青吸光光度法	(貧栄養)	(富栄養)
T-P	(全リン) リン酸イオン及び有機態リン等の含有率の合計であり、栄養状態により値が変化する。 底質調査法 II 4.9.1 硝酸一過塩素酸分解法	(貧栄養)	(富栄養)
ORP	(酸化還元電位) 土壌中(液)の持つ酸化力(+)又は還元力(-)を示す。還元性を示す程、土壌変質の影響が大きい。 底質調査法 II 4.5 ORP計による方法(水素電極基準)	還元性(-)	酸化性(+)
硫化物 (T-S)	硫黄と水素、カルシウム又はナトリウム等の化合物で還元性(腐敗性)環境下では大きな値を示す。 (水産用水基準で 汚染の始まりかかった泥: 硫化物 ≥ 0.2mg/g) 底質調査法 II 4.6 水蒸気蒸留一滴定法	酸化性	還元性 (腐敗しやすい度合)

- 河川AA類型: 環境庁による「生活環境の保全に関する環境基準」において、河川で最も厳しいとされる基準値
- 海域A類型: 同上の基準において、海域で最も厳しいとされる基準値
- 水道水: 厚生省による「水道水質基準」において、水道水の満たすべき基準値
- 底質は、水と比較するよりも、土壌と比較する方が適切と考えて上表を作成した。(ORPは除く)

